

もし、大切な人と40年間会えなくなったら… 拉致被害者を家族のもとへ！ 拉致問題は現在進行形の私たちの問題です

拉致被害者家族の高齢化が進んでいます。

拉致被害者の帰国の実現まで、もはや一刻の猶予也没有ありません。



▲横田めぐみさん、哲也さん、拓也さん
「姉のめぐみと両親が元気なうちに抱き合える日が来れば」(横田哲也さん)

北朝鮮による拉致問題については、政府だけでなく国民的な課題として、国民全員が一日も早く被害者を取り戻すという強い意志をもっていることを発信し続けることが北朝鮮や国際社会への強力なアピールになります。

大阪においても、あらゆる世代を通じて、市民一人ひとりが自らの問題として決して風化させることのないよう声をあげ続けていきましょう。

平成30年2月17日に「拉致問題を考える国民の集い in 大阪」(主催: 内閣府・大阪府・大阪市等)を開催！
市民の皆さんへのメッセージ

横田哲也さん(横田めぐみさんの弟)

拉致問題の解決は「日本人が自由や正義がどれだけ大切なものであるか」を認識し続けられるかだと思っています。誰かがやってくれるだろうではなく、一緒に戦っていただきたいと思っています。



増元照明さん(増元み子さんの弟)

日本国として、北朝鮮が嫌がる最大限の圧力をかける必要があると思います。ブルーリボン運動を普及させ、日本中でこのブルーリボンをつけている方が8割いらいしゃるならば、北朝鮮も無視できなくなり、大きな流れを作ることができると思っています。



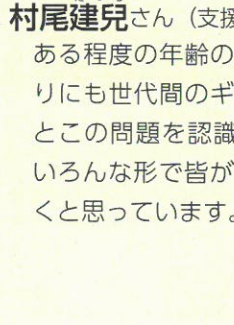
松本孟^{はじめ}さん(松本京子さんの兄)

地元の小学校でも話をさせていただいております。話を聞いて終わりではなく、これをきっかけにもう少し学ばれたり、話を覚えて他の人に話し、広げていただければと思います。



村尾建^{たつる}兒さん(支援団体「特定失踪者問題調査会」)

ある程度の年齢の方は関心を持っておられますが、あまりにも世代間のギャップが大きく、次の世代がしっかりとこの問題を認識して動いていかなければなりません。いろんな形で皆がやっていて、初めて大きく広がっていくと思っています。



加藤勝信 拉致問題担当大臣

国民の皆さんが心を一つにして、全ての拉致被害者の帰国を実現させる決意を示していただくことは大変強い後ろ盾になります。国としても全力を尽くしてまいります。

松井一郎 大阪府知事

大阪府といたしましても「拉致された人を忘れない。全員を救い出す」との思いで、政府を強力に後押しする取組みを進めております。

吉村洋文 大阪市長

大阪市としてご家族の思いを市民の皆さんに伝えていかなければなりません。市民の皆さんが声をあげていくことは、国を動かしていくことになります。

皆さんが声をあげていくことは、 国を動かしていくことになります！

拉致問題とは？

北朝鮮による拉致は国民の生命と安全に関わる重大な人権侵害問題であるだけでなく、我が国の国家主権にかかわる問題です。

平成14年に北朝鮮が日本人拉致を認め、日本政府が認定している17名のうち5名の拉致被害者が帰国しましたが、残りの12名の帰国は実現していません。大阪で働いていた方（原 勲晃さん）もおられます。

この17名のほかにも、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない行方不明者は全国で883名にのぼります（平成30年3月現在警察庁発表）。さらに、民間団体「特定失踪者問題調査会」の独自調査により拉致の確率が高いと判断された人も77名（平成28年12月1日現在）おられます。

ブルーリボン

拉致被害者の救出を求める運動のシンボル

青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」を、また、被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

啓発DVD

アニメ「めぐみ」

政府のホームページから視聴できます。
大阪市立図書館、大阪市人権啓発・相談センターでもアニメ「めぐみ」ほか、拉致問題に関するDVDを貸出ししています。



ビデオメッセージ

（拉致被害者ご家族ビデオメッセージ）

～必ず取り戻す！愛する家族へ～



政府のホームページから
視聴できます。



詳しくはホームページにて

行政

大阪市 拉致問題の
ホームページ



政府 拉致問題対策本部の
ホームページ



政府 外務省の
ホームページ



民間

大阪ブルーリボンの会



特定失踪者問題調査会



救う会全国協議会

